



高橋浩樹 議員

「ガン探知犬検査・健康保険の適用不適用」、認識にズレがあるのはなぜか

高橋浩樹議員 宮下教授の講演では、この検査結果を持って、その後の精密検査に健康保険は適用とならないだろうとの回答だった。行政側と医師側で見解に相違がある。健康保険が適用となる場合とならない場合があるのか。ガンの種目を特定するその後の検査で、健康保険の適用、不適用について伺う。

町長 町立診療所の瀬尾先生が窓口となり、「面談・通常検診の結果・本人と家族の病歴」等、がんと関連

ガン探知犬検査の確定まで町の責任で

回答 結果に応じて健康保険で対応して頂く

情報を聴き取りし瀬尾先生がフォローするが、場合によっては千葉北総病院の先生のフォローもある。また、可能な精密検査は診療所でも実施できると考えている。ただし、医師の診断により二次医療機関での精密検査が必要となった場合は、紹介状を交付し、他の病院で受診して頂くことになる。

高橋議員 100%の確率でガンの有無を特定し、ガンの種目を検査する検診に健康保険が適応となるのであれば、40歳以上の全ての住民を対象を拡大することが、健康長寿につながるのではないかと。町の保険組合に

加入されている方にも、今後に向けて検査を受けやすい体制や受診して頂ける方法を検討していきたい。

町長 正否の結果が出る段階は個々によって違うと思われる。誤診の判断という点については、今回の研究事業がその事を検証するたため、非常に大きな意味があるものと考えている。

町長 診療所で処置が可能な範囲の患者であれば受け入れは可能と考える。スタッフの意向としても可能であるということだった。診療所医師の考えとしては、まずは気軽に相談して頂きたいということ。全く駄目という考えではなかった。医師・スタッフ・職員が一丸となり努力していきたい。

町長 実施設計を早く終え、なるべく早い段階での発注が出来るよう努力していきたい。また、大型の建築物については、複数年度での建設ということも考えて対応していきたい。



日本医科大学病院宮下正夫教授基調講演 H29/5/2

高橋議員 地域包括ケアシステムの構築に伴う在宅介護を進める上で、ショートステイといわれる介護サービスでは、医療設備が整っていないため、全ての要介護者を受け入れることが出来ないが、この部分についても、対応して

町長 国土交通省より通達があった、施工時期等の平準化に向けた計画的な事業執行は高橋議員 認定こども園新園舎の建築にあたり、工期内に完成とな

町長 実施設計を早く終え、なるべく早い段階での発注が出来るよう努力していきたい。また、大型の建築物については、複数年度での建設ということも考えて対応していきたい。

待望の「道の駅」「街の駅」は実現可能か

回答 事業化に向け検討を始める

「待たれる観光拠点 施設整備」

須藤典夫議員 中央公民館の改築に併せての「道の駅」、あるいは「街の駅」建設計画は町民のからの期待も大きい。さらに町が進めている景観100年運動の観光拠点としても果たす役割もあると考える。計画の概要は。

町長 新庄の赤坂地内から金山のインターまでの間の整備については、まだまだ時間が掛かるだろうと思っっている。道路が整備されるまでの間、国道13号を多くの車が通る訳なの

で、そこに、道の駅なり、街の駅なりを建設する。あるいは、設置した方がより効果は大きいのではないかと思っっている。

あるいは、外に別棟で建てなければならぬのか、そういう事を基本設計の段階から考えていく必要があると考えている。

「生活支援総合事業」とは

須藤議員 本年度から要支援者の「デイサービス」と「ホームヘルプ」が介護保険給付か

ら市町村事業「介護予防・日常生活支援総合事業」へ移っているが、介護事業者、要支援者（利用者）の負担増にはなっていないか。

町長 平成29年5月末現在、サービス事業利用決定者は4名となっており、全員「通所型サービス」利用者となっている。また、全員が要支援認定を受けている方であり、基本チ



総合事業で介護予防や生きがいづくり

販う青空市

エックリストを用いた簡易な形でサービス利用に至った方はいない。要支援者（利用者）の負担増についての懸念であるが、介護事業者においては従来と同様に契約締結手続があり、要支援者（利用者）の方については、利用申請手続きや利用料が発生するが、新たな負担というものは無い。

町長 平成29年5月末現在、サービス事業利用決定者は4名となっており、全員「通所型サービス」利用者となっている。また、全員が要支援認定を受けている方であり、基本チ



須藤典夫 議員

